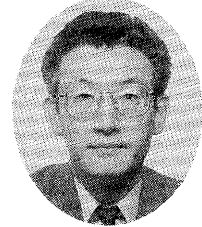

 巻頭言

グローバルな学会活動にむけて



杉山 公造

本会国際担当理事 北陸先端科学技術大学院大学

最近、改革の気運が盛り上がってきている。昨年度、理事会と調査研究運営委員会により将来ビジョンが策定され、今年はその実行の年と位置づけられているからである。もっとも改革の気運が盛り上がっているからといって喜んではいけない。社会の変化への対応が遅れ、それだけ問題が山積していることの証左でもあるからである。将来ビジョンがホームページや学会誌に公開され、早速学会誌の編集長制や論文誌の査読システムの改革などが動き出した。

私どもが担当している国際関係に関してもいくつかの改革が提案されている。その骨子は、ともすれば受け身になりがちであった当学会の国際活動をもっと体系的で戦略性のあるものにするにはどうしたらよいかを考え、実行に移すことである。

これまで本学会の国際活動は IFIP 主体に進められてきており、国際委員会は主としてそのための受け皿として機能してきた。当初は、情報通信技術分野のいわば国際連合である IFIP に加盟し活動することは、体系的性と戦略性を備えた賢明な方策であり、日本で IFIP の kongress を開催するなど日本の情報通信分野を国際化にうまく巻き込む仕組みとして機能したと思われる。しかし、近年のインターネットや電子化を起爆剤とする社会のグローバル化にともなう学会間の競争と協調の時代を生き抜くためには、欧州中心の IFIP 一辺倒では対応しきれないことが明白となってきた。昨年度中でも、韓国 KISS、東南アジア SEARCC、ACM 主導電子化協力会議などへの対応が必要となっている。そこで、これまでの IFIP 主体の活動のためには専門委員会を設けるとともに、国際活動を学会全体の問題として理事会が責任をもってこれにあたることにより、国際活動の機動性を高めようということである。

しかし重要なのは機構をいじることではない。ボランティアベース、活動資金などの限界の中で、どんな学会の将来像を描き、どんな有効なアクションがとれるかである。難題であるが、最近前理事が内外の学会の現状の調査をもとに、求められるグローバルな学会像をさぐる努力をされている。参考となるので、以下に要点を簡単に示す。

(1) インターネットと学会：自由に同好の士が集えてオープンに発表できる場を世界に通じる公認学会のインターネット情報場につくる。IEEE-CS の Webzine など。(2) 品質保証された情報発進：単なるインターネットと異なり、品質保証された価値ある情報をグローバルに発進流通する。国際的学会連携デジタルライブラリ計画など。(3) グローバルな情報の入手と連携・調整：関連情報分野の最新情報が集まり、会議の企画開催の連携と調整をする。(4) グローバルな学術情報利用：グローバル研究開発、遠隔教育などにおいて、研究開発のメモや報告書、講義の中で、学会がもつデジタルライブラリが直接参照できる。国際的な学会間の協力連携が不可欠。(5) 国際会議のグローバル開催：インターネットを使った国際会議の多国間同時開催など。(6) 地域別の戦略：欧米は学術指向、アジア地域は産業指向といった戦略、地域を限定した基金など。(7) グローバルな相互資格認定：全世界を対象とした専門技術者資格認定制度や電子的な学会相互会員認証システム。(8) グローバルな定期刊行物：複数学会の共同出版や世界的販路をもつ出版社からの出版。

最後に、グローバルな学会のためには、学会の個々の活動において積極的にグローバル化する努力をなされることが最も重要であることを指摘しておきたい。

(平成9年9月2日)